



## 生産技術科 作物コースが先端技術講習会を開催しました。

**目的** SPH 事業の指定を受け、大学・研究機関・企業等と連携し、社会の変化や産業の動向等に対応した高度な知識・技能を身に付け、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成することを目的とし、作物コース1・2年生に対し農業分野のIT化や作業の軽労化や人手不足の解消に向けた技術について講習会を行う。

**日時** 平成31年1月16日(水) 13:35～15:20

**場所** 本校グラウンド(実技)・視聴覚教室(講演)

**講師** (株)新潟クボタ ソリューション営業部の皆様

**実施生徒** 生産技術科2年作物コース20名

農業科1年生作物コース決定者21名

**実施内容** ○ドローンについて説明し、農業用ドローンの実演

○小型ドローンを用いた生徒の模擬操作体験

○トラクタ、田植機、草刈り機など農業機械のIT化について映像を中心とした講義  
ドローン操作の実演及び講義

**成果** ○農業分野でもIT化が進み、農業用ドローンやトラクタ、コンバインの無人操作など、農業従事者不足に対応可能な技術が進歩し、実用化されていることを学んだ。  
○農業用ドローンの実演と小型ドローンを用いた模擬操作体験を通し、その利便性と簡易性から、ドローンがこれからの農業分野に浸透していく可能性が高いことを体感した。

**生徒の感想** ○日本の農業機械は自動化が進んでいるので、高齢者や農業未経験者でも比較的簡単に作業ができるので、凄いなと思いました。

○新潟クボタ様で、現在どのような取り組みをしているか分かった。また、農業の様々な問題についても良く研究し、解決に向けた取組をしていると思った。

**今後の課題** ○農業分野のIT化により、今後の農業が省力化されることが期待されるが、現段階では省力化のための道具という意味合いが強い。使用者が栽培の基礎的な知識・技術を習得していなければ、マシントラブル等が発生した際に対応できないことが考えられる、そのためにも、今後も栽培の基礎・基本を授業で理解させておくことが重要な課題である。

**講師からの助言** 若い人ほどIT技術への順応が早い。そういった意味でも若手農業者に期待している。



飛行するドローン

(決められた範囲の外へは飛べない設定)



グラウンドでの実演と生徒による模擬操作体験の様子